

子育て支援教育

魅力ある教育の町の実現
子どもの遊び場の確保は



諏訪本 光議員

〔建設部長〕

小学校のグラウンド等を円滑に開放、公園は、他の利用者に迷惑をかけない利用をお願いしている。

〔Q1〕公園でボール遊びや花火の禁止等、利用制限をしている公園はどれぐらいあるか。

〔A1〕緑地を含めて43箇所
の公園がある。利用制限の看板がある公園は26箇所、その内、ボール遊びや花火を禁止している公園は5箇所ある。

〔Q2〕子どもが自由に遊ぶことができる公園の整備を考えてもらいたい。

〔A2〕お互いが迷惑をかける利用を願いたい。危険性のある遊びは控えていただきたい。

〔Q3〕活動の善し悪しの判断が出来ることは、教育上大事なことだ。

〔A3〕道徳の授業や遠足などの集団行事をとおして教育している。
〔Q4〕難しいことだが、長期休業中の小学校の体育館の開放はできないか。
〔A4〕事故等の管理面で対応できないこともあり、開放は難しい状況にある。
〔Q5〕町が進めているストッブナイン等の運動に関して、子どもが昼間、汗を流し、無我夢中になって遊ぶ環境や指導をすることが大切だ。
〔A5〕子どもを指導する上で、大人の役割は大きい。この運動も親の参加が必要。また、学力低下やいじめを防止する観点からもその環境を整えたい。

〔立花 慶三 議員〕
ハンドル型電動車イス(シニアカー)利用者の保護対策は

〔建設部長〕

レンタル業者が、月1回は利用状況を確認、点検チェックし、その状況をケアマネジャーにフィードバックしている。



〔Q1〕シニアカー利用者の安全確保の為にバリアフリー化等、対策への展望について問う。

〔A1〕現在介護保険により25台程度が使用されているが、自費購入者は不明である。道交法では歩行者に位置付けられているが、町内では歩道自体が設置されていない道路が多いため、随所で車道を通行しているのが実態である。このためにガードレール等の安全施設整備と段差解消による歩道の切り下げ工事を順次実施している。

〔Q2〕今後、利用者は増えると思うし増えなければ困る。年齢構成について問う。

〔A2〕75歳以上がほとんどで、男性が多い。

〔Q3〕安全指導についてどのように考えているか。

〔A3〕町が直接指導することとはしていないが、使用者の多くが介護認定を取得しシニアカーを借りている。この場合、ケアマネジャーのアドバイスやレンタル業者が安全教育を徹底している。

健康福祉

超高齢社会における
介護予防の取り組みは



立花 慶三議員

〔町長・民生部長〕

特に介護予防、健康づくりの重要性を認識し、住民主体で取り組めるシステムづくりを行っている。

〔Q1〕熊野町における地域包括ケアシステムの取組状況は

〔A1〕団塊の世代が全て75歳以上になる平成37年にむけ、住み慣れた地域で自分らしい暮らしができるよう、住まい、医療、介護、介護予防、生活支援が一体的に提供されるシステムづくりを進めている。

〔Q2〕認知症初期集中支援チーム設置についての進捗状況は。

〔A2〕チームには、認知症の鑑別診断ができる専門医が必要である。しかし、町内には要件を満たす医師はいない。

現在、熊野町だけでなく安芸郡4町による合同の支援チーム設置を進めている。

〔Q3〕介護の人材不足をどう打開するのか。

〔A3〕ヘルパーの資格がなくともできる家事支援等を、元気な高齢者の方に担っていただいた。住民同士の支え合いのために、年度内に支える人を養成するための研修会の開催を予定している。



〔町長・民生部長〕
発達障がい者支援体制の早期構築を



沖田 ゆかり 議員

成長に応じた支援体制を作ることは重要。

〔Q1〕早期発見、早期発達支援体制の構築について問う。

〔A1〕1歳6カ月健診、3歳児健診における保健師、心理職による問診と個別相談、小児科医による診察のほか、今年度からは教育委員会と連携し、就学前の5歳児相談も始めた。

〔Q2〕個別支援ファイルの作成について問う。

〔A2〕県内共通様式のサポートファイルを、平成21年度から障がい児の保護者に配布している。

〔Q3〕ペアレントメンター等の活用による家族支援について問う。

〔A3〕広島県の取り組みについて動向に注視し前向きに取り組んでいく。
〔Q4〕教育現場における個別の教育支援計画や指導計画の作成について問う。
〔A4〕特別支援学級ではないずれの計画も作成済みである。通常学級においても支援を必要とする児童・生徒については個別の指導計画は作成済みで、今後は個別の教育支援計画の作成を検討する。